

令和7年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第三中学校

校長名 増木 一仁

公印

教育目標

人権尊重の精神を基調とし、心身共に健康で、知性・感性・道徳心に富み、「確かな学力」「豊かな人間性」を育み、たくましく生きていく生徒を育成するため

- ・ よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒を育成する。
- ・ ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒を育成する。
- ・ 責任を果たし、みんなのために働く生徒を育成する。
- ・ 美しいものをもとめ、豊かな心をもつ生徒を育成する。

1 目指す特色ある学校像

「みんなが成長できる学校」

生徒全員の成長を中心に、そこに関わる教職員・保護者・地域の方々も成長し、ひいては地域全体の成長につながる学校を目指す。

そのためには誰もが安心して挑戦できる環境が必要であり、トライ＆エラーを繰り返して成長していくという考え方も大切である。

具体的には「自分の将来に夢や希望をもち、自立して卒業できる生徒の育成」を目指し、キャリア教育の充実を図り、確かな学力を身につけ、豊かな心情を養い、自らを律し行動できる生徒の育成を目指す教育活動を展開する。

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

- ① カリキュラム・マネジメントを確立し、教育活動の質を向上させることで、個々の生徒の個性の伸長を図り、生徒が自己の将来に夢と希望、そして展望をもって義務教育を修了できるようにする。
- ② コミュニティスクールとして、さらに地域の中の学校、地域とともに歩む学校を目指す。

(2) 本年度の目標

① 学力向上

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組み、確かな学力を育成する。
- ・ 発達に応じた支援を充実させるとともに、家庭と連携し学習習慣を確立させる。

② 心の育成

- ・ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育に取り組む。
- ・ 集団や個人で達成感や成就感を体感させ、自尊感情や自己肯定感を高める。
- ・ 悩みを抱える生徒や不登校生徒の対応として、校内支援委員会を中心に全校体制で取り組む。
- ・ 地域と連携し、ボランティア活動や地域貢献をすることを通して生徒の自己有用感を育む。

③ 体力向上（健康推進）

- ・ 全校をあげて体力の向上を図る。
- ・ 健康についての理解を深め、望ましい生活習慣の確立を図る。

3 目標達成に向けての課題

- ・学校としての方針や考え方を明確にして、教職員・生徒・保護者・地域が共有を図ることが大切である。
- ・教職員が心理的安全性を確保し、個々の強みを生かし、組織として協働することが大切である。
- ・保護者が学校の方針等を理解し、教職員と連携を図り子供の指導を行えるようにすることが大切である。
- ・地域の理解や協力を得て、地域総がかりで子供を育てる風土の醸成を図ることが大切である。
- ・生徒が学ぶ意義を認識し、目標を持ち、何事にも積極的に取り組むことが大切である。

4 経営の具体策

① 学力向上

- ア 福生市教育委員会研究奨励校として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業やICTを活用した授業研究に取り組む。
- イ 系統的なキャリア教育に取り組み、教科横断的な視点で内容を編成し、自己実現のために、自己理解や人間関係形成能力、確かな学力を身に付ける意義を理解させる。
- ウ 発達に応じた支援を充実させるとともに、家庭と連携して学習習慣の確立に取り組む。
- エ 思考力や表現力育成のため、学校図書館の活用や朝読書を充実させ読書活動の推進を図る。
- オ ALT を英語の授業以外の活動でも活用し、日常的に生きた英語に触れる機会を増やし英語力の向上を図る。

② 心の育成

- ア 生徒が他者との関わりの中で、認められ、感謝される体験や教師が生徒を観察し、励まし、自信をもたせる指導を積極的に行うことで自尊感情を高める。
- イ 校訓「礼節」に取り組み、基本的生活習慣の確立、社会性の育成に取り組む。
- ウ 美校会、挨拶運動、落ち葉掃き清掃など、地域に貢献する活動やボランティア活動などを通して、よりよく生きる基盤となる道徳性や社会性、自己有用感及び自尊感情を養う。
- エ CS委員会を核とした活動（「学校環境美化」「地域人材活用（地域の方に学ぶ講座）」「地域防災・安全指導」「健全育成（挨拶運動等）」）など、さらなる充実に向けて企画・実践していく。
- オ 「安心安全で認められる学校」を目指し、いじめ、不登校生徒の減少につなげる。
- カ 1年生においては、小学校生活との円滑な接続を図るために「スプリングウィーク」と銘打ち、学級開きやオリエンテーション等の交流活動を充実させる。

③ 体力向上

- ア 望ましい生活習慣を促す生活指導として、日常的な食育を推進するとともに歯磨きの習慣化にも目を向け取り組む。
- イ 体力テスト等の分析により、全教員が本校生徒の体力についての実態を把握し、体力は気力の源になるという認識の下に、体力向上に向け、計画的・継続的・組織的に推進していく。

5 年度末のチェックポイント

- ・生徒、保護者、教員アンケートにおける肯定的評価（80%以上）
- ・各種学力調査結果（全国平均値以上）
- ・体力テスト結果（東京都平均値以上）